

時事新報

東京大阪間ノ鎮道聯絡

我日本政府ニ於テハ中仙道ヲ經テ東京大阪間ノ鎮道聯絡ヲ急ガンガタメ工部省ニ命シテ早々其工事を着手セシメ其費用ノ内トシテ來ル明治十七年度ニ於テ金五十万圓ヲ別途同省ニ下附セラルベシトナリ我國ノ鎮道ノ必要ナル固トモリ喋々ノ論ヲ俟タズ殊ニ東京大阪間ノ線路ノ如キハ就中必要ノモノニシテ其有無并ニ布設ノ遲速ハ全國ノ富強文明ニ關スルコト少ナカラサルヲ以テ我政府ガ此間ノ鎮道聯絡ヲ急ガントスルハ社會上并ニ政事上ヨリ觀察シテ甚タ其當ヲ得タル企ナリト云ハザルヲ得ズ今東京ヨリ大坂ニ達スルマデノ既成未成ノ鎮道線路ヲ檢スルニ東京ヨリ高崎ニ至ル日本鐵道會社ノ線路ハ既ニ本庄マデ落成シ高崎ニ達スルモ亦甚タ近キニ在リ又大坂ヨリ京都ヲ經テ大津ニ至リ夫ヨリ十五里ノ空間ヲ置キ更ニ長濱ヨリ起テ關ヶ原ニ至ルマデノ工部省ノ線路ハ既ニ落成シテ當時正ニ運輸ノ業ニ從事シ關ヶ原ヨリ大垣ニ至ルノ部分モ時日ヲ失ハズ起工スベキ手筈ナリト云ヘリコレニ由リテコレヲ視レバ東京大阪間ノ鎮道ヲ聯絡セントスルニハ高崎ヨリ大垣ニ至ル七十里内外ノ線路ト長濱ヨリ大津ニ至ル十五里ノ線路トヲ布設シテ始メテ其功ヲ全クスルモノナリ而シテ又此鎮道聯絡ノ費用ハ果シテ幾万ノ金ヲ要スルヤハ我輩未タ聞ク處ナシト雖モ先例ニ依リ工部省ノ布設シタル鐵道ノ費用ヲ算スルニ明治五年落成ノ東京橫濱間ノ線路ハ一里ニ付四十一万圓計リテ費シ明治七年落成ノ神戸大坂間ノ線路ハ一里ニ付凡五十万圓ヲ費シタリ今日ヨリコレヲ見レバ頗ル適當ナル費用ナルガ如シト雖モ當時我國人ノ斯ル工事を不案内ナルト此等線路ノ停車場建築ノ壯大ナル鐵道敷地ノ廣キナド一體ニ工事ノ念入りタル所アルトコト因リテ斯ル過大ノ費用ヲ要シタルナラント察セラル、ナリ左レバニヤ此等ノ線路ニ次ギ明治九年落成ノ大坂京都間ノ線路并ニ同十二年落成ノ京都大津間ノ線路ノ如キハ其費用一ハ一里ニ付凡廿五万圓一ハ同斷凡十六万圓マデニ減少シタリ思フニ長濱地方ノ新線路ノ如キ柳ヶ瀬ノ隧道ハ格別其餘ノ部分ニ屬スルモノハ其費用必ズ又大ニ減少シタルヤ疑ハザルナリ殊ニ頃日我輩ガ儲ナル筋ヨリ聞キ得タル報章ニ依レバ日本鐵道會社ノ既成線路上野ヨリ本庄ニ至ル五十一英里四分一ノ鎮道布設費ハ戸田川橋樑架設落成マデノ工費ヲ見積リ總計百六十三万五千八百圓計リナリト云ヘリコレヲ日本里程ニ直ストキハ二十一英里弱ニシテ其布設費一里ニ付七万七千圓計リノ小額ナリ但シ上野本庄間ノ鎮道ヲ取テコレヲ東京橫濱間又ハ神戸京都間ナドノモノニ比スレバ其構造ノ精粗固ヨリ同日ノ論ニテアズト雖モ我々日本人ノ鎮道ヲ渴

電報

望スル情ニ於テハ依令租惡ニテモ其用ヲ達スレバ足レリ決シテ高價ノ鎮道ヲ布設シテ富チ壯フノ餘力ナキモノナリト承知スルガ故ニ今回中仙道ノ線路ヲ布設スルニ於テモ上野本庄間線ノ鎮道ニシテ不足ナルベシ就テハ中仙道地方山路ノ險アルタメニ費用ノ嵩ムベキ見込アリトシテ十分ニ其割ヲ取リ一里ニ付十萬圓ノ布設費ヲ要ストスレバ高崎ヨリ大垣マデノ分七百方圓長濱ヨリ大津マデノ分五百方圓二項合シテ八百五十方圓計リナリ大ニ工事ニ念ヲ入ル、モ千方圓ヲ超過スルコトナカルベシ千方圓ハ百万圓ノ十倍五十方圓ノ二十倍ニシテ強チ小額ノ金ニアラズト雖モ我々日本國ノ身代ニ取リテ決シテ驚クベキ程ノ金額ニハアラザルナリ然ルニ今我々日本政府ガ此鎮道聯絡ヲ急ガンガタメニ工部省ニ下附スル別途金ノ高チ聞ケバ明治十七年度ニ於テ僅々五十万圓ニ過キズト云ヘリ若シ此割合ヲ以テ此工費ヲ給スルコトセバ東京大阪間ノ鎮道聯絡ノ日ハ今ヨリ二十年ノ未來即チ明治三十七年ノ遠キニ在ルコト數理ニ於テ蓋シベカラザル明々白々ノ事實ナリ左リトテハ餘リ緩慢ニ過クルノ嫌アルヲ免カレザルヲ以テ我輩ハ信ズ日本政府ガ中仙道ノ鎮道ヲ急クノ意ハ今ヨリ二十年ノ中ニ成就セバ足レリト云フガ如キモノニアラズシテ必ズヤ今少シク此工事を急ギ十七年度以後會計上ノ都合ニ因リテハ一年ニ二三百万圓乃至四五百万圓ヲ別途ニ下附シテ直ニ其功ヲ成シ明治三十七年ノ遠キヲ待タズシテ兩三年間ニ東京ト大坂トヲ聯絡シ尙進テ西ハ九州東ハ青森西南東北日本國ノ地形ニ沿フテ恰モ交通神經ノ本幹ヲ通スルガ如キモ甚タ近キニ在ル可シト知ラズ我々政府ノ意向ハ果シテ我輩ノ信任ヲシテ空シカランメザルヤ否ヤ

雜報

達する前に其向を西方に變へシテ北緯十の間を過ぎて本日支那海に吹入るなら
○十一月廿六日龍動發 英國政府ハ清佛の見込めて目下佛國政府と談判を關し居評判なり○英國政府にては支那艦隊を擯發したり
○寺島公使 寺島特命全權公使が病氣のあも記載せしが歸朝後も何分全快に至ら療養の爲先豆州熱海温泉へ赴くよし
○品川農商務大輔 同大輔之宮崎縣の二月下旬歸京の積りにて同隨行官農商務大分、福岡、佐賀、熊本、長崎等の諸國歸京する旨其筋へ電報ありたり
○前皇讓位 佛國新聞の記載する所國王ルイス陛下ハ國中リベタル黨の被らされて近々讓位の抄はあるべしとい
○井上參事院議官 同議官は昨日憲法草案程編纂御用掛を命せられたり
○名村木村兩書記官 過股長崎縣へ出書記官、木村同少書記官は昨日横濱入て歸京せり
○陸奥宗光君 同君は兼て新築に取杉村五十番地の邸宅も兼此程落成せし所へ引移りたるよし
○大島工部大技長 豫て上京中なりし工部大技長之一昨廿八日出發歸局した
○判事 一昨廿八日判事高木勲君は同加藤祖一君は大審院議を命せられた
○佛國公使 前北京駐在トリック公使たるバートノートル氏は去月既に本國といへる近々清國へ來着あらんと上海
○俸給 檢事加納謙君は去る九日に同視松澤光憲君は同廿一日に判事竹田忠各左の通仰渡されたり
自今年俸千八百圓下賜候事
自今年俸九百六十圓下賜候事
下等月俸下賜候事
年俸千二百圓下賜候事
○歸京 此程千葉縣下の巡回を命せら山農商務大書記官及同省准委任御用掛六日歸京したり又兼に東海地方巡迴たる太政官准委任御用掛草野宜雄氏はたり